

山口大学 Topics & News

～さまざまな特徴ある取り組み～

本学は、9学部8研究科を擁する基幹総合大学として、知を創造して世界に発信するとともに、地域の知の拠点として、地方創生に貢献しています。教育・研究・地域貢献・ダイバーシティ等、あらゆる分野の活動に、学生・教職員が一丸となって日々取り組んでいます。



01

令和4年度地域活性化人材育成事業～SPARC～ 「ひとや地域(まち・文化・教育)のwell-beingに貢献する 文系DX人材の育成」キックオフシンポジウムを開催しました

令和5年5月16日(火)に「ひとや地域(まち・文化・教育)のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成」キックオフシンポジウムを開催しました。全国の大学関係者、地域の行政機関及び企業等の幅広い層から約250名(うち、オンラインは130名)の参加がありました。

始めに、文部科学省高等教育局大学教育・入試課 課長補佐 山田研市氏からSPARC事業全体の説明が行われた後、山口大学からSPARC事業の概要及び取組状況を報告しました。基調講演では、株式会社国際社会経済研究所 研究主幹の西岡満代氏とQuantum Analytics合同会社CEO、データサイエンティストの古屋俊和氏から、本事業に対する期待について講演いただきました。最後に、パネルディスカッションを実施し、文系DX人材の必要性や社会から期待されること、在学中に身につけておく資質・能力について意見を交換しました。

本シンポジウムを通じて、本事業で育成する「文系DX人材」の役割や必要性に対する理解が深まるとともに、3大学で運営する「SPARC教育プログラム」の教育内容及び教育方法に対する示唆をいただき、大変有意義なものとなりました。



02

韓国ソウルで開催された第9回アジア・オセアニア 植物脂質シンポジウムでポスター賞を受賞しました

令和5年10月10日(火)～14日(土)に韓国ソウルの西江大学で開催された第9回アジア・オセアニア植物脂質シンポジウムで農学部の中山香乃さん(生物機能科学科農産製造学研究室)がポスター賞を受賞しました。

ポスター題目は「Ca²⁺-induced activation of lipoxygenase 2 accounts for green leaf volatile-burst in Arabidopsis leaves (Ca²⁺によるリポキシゲナーゼ2の活性化がシロイヌナズナ葉のみどりの香りバーストを駆動する)」でした。植物は傷つけられると直ちにみどりの香りを放散します。その仕組みは長い間不明でしたがこの研究で酵素がカルシウムによって活性化されることがその基盤になっていることを明らかにし、この度の受賞に至りました。

国際会議で学部生が発表すること自体素晴らしいことですが多くの国から集まった優れたポスターの中からポスター賞に選ばれるのは特筆できる成果です。受賞に関して中山さんは「諸先輩方の研究成果の裏付けがあって初めて本研究の進展が可能となったと思います。これからもこの賞に恥じないよう一層研鑽し、研究を推進していきます」と述べています。



03

山口大学図書館学生協働 留学生交流会 「図書館でおしゃべりしましょう!」を開催しました

令和5年10月18日(水)に、図書館学生協働留学生交流会「図書館でおしゃべりしましょう!」を開催しました。この交流会は、ダイバーシティキャンパスとして誰もが使いやすい大学図書館にするため、留学生に意見を聞かせてもらう機会として実施したもので、9月に来日した留学生を中心とした20名の参加がありました。

総合図書館1階アカデミックフォレストを会場として、折り紙、ブックカバー作り、トークテーマを設けたおしゃべりを実施し、終始打ち解けた雰囲気の中で、図書館や学生生活について活発に意見交換が行われました。参加した留学生からは、「来日して初めて日本人の学生と仲良くなることができました。今後も参加したいです」「私たちの意見を熱心に聞いてくれて心が温まりました。とても良い午後を過ごすことができました」との感想がありました。

図書館では、今後も学生協働によるピアサポートを強化し、充実したサービスに取り組んでいきます。
*学生協働とは、大学図書館サービスの向上や、ピアサポート、学生のキャリア形成支援を目的として平成18年より活動している学生団体です。



04

山口大学グリーン社会推進研究会
第3回シンポジウムを開催しました

令和5年11月21日(火)に、山口大学グリーン社会推進研究会第3回シンポジウムを開催し、民間企業や自治体等約70名の方々の参加がありました。

第3回シンポジウムは山口市のホテルニュータナカを会場として開催し、企業の取り組み紹介として、株式会社IHIの増田充弘氏から「IHIグループのアンモニアバリューチェーン構築に向けた取り組み」、東レ株式会社の柿山創氏から「多孔質炭素繊維を支持体とした革新CO2分離膜」について講演をいただきました。その後、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の尾崎氏からグリーンイノベーション基金事業について、山口県産業労働部理事の大川氏から県内コンビナートにおけるカーボンニュートラルに向けた取り組みについて紹介をいただきました。最後に、山口大学の取り組みとして山口大学大学院創成科学研究科の荊木康臣教授、白石僚也准教授の研究紹介を行いました。

本シンポジウムをきっかけとして、グリーン社会の実現に向けた、企業、自治体、産学支援機関及び本学との連携が更に加速することが期待されます。



06

「山口中央ライオンズクラブ」と「あどべん」が
共育の丘で奉仕活動を行いました

「地元との共生」で大学の里山の環境緑化を推進する「『共育の丘』～奉仕の森 活動～」が、令和5年12月9日(土)に行われました。

この奉仕活動は、山口中央ライオンズクラブからの申し出により始まったもので、12回目となった今年は、「山口中央ライオンズクラブ」と「おごおりウィークエンドアドベンチャー(あどべん)」の子どもたちやスタッフ、山口農業高校の生徒、そして山大学生5名が活動に加わって、総勢約100名が参加しました。

冬晴れに恵まれた当日、参加者とともに共育の丘に登った谷澤幸生学長から、大学の紹介と活動への感謝が述べられ、激励の言葉が送られました。そして、丘からの眺望を背景に記念撮影した後、作業がスタートしました。丘の上にソメイヨシノ5本を植樹する作業では、ライオンズクラブ、あどべん、山農高生、山大学生が班に分かれ、運搬、植付、養生まで力を合わせて行いました。また、丘の頂上付近では、芝や雑草の刈り込み、収集等の清掃作業を行いました。お昼頃には作業が終了し、頂上は見違えるほど綺麗になりました。



05

「冬のイルミネーションツリー」
点灯式を実施しました

令和5年12月4日(月)、吉田キャンパス正門付近にて「冬のイルミネーションツリー」の点灯式を行いました。この点灯式は、2015年から行っており、地域の方々と学生をつなぐ冬の風物詩となっています。

今年度は、「山口のクリスマス盛り上げよう!」をテーマに、学生サークル「ブラッシュアップ・ヤマガチ」によるイルミネーション点灯が、おもしろプロジェクト企画の一環として実施されました。この企画は、山口商工会議所 日本のクリスマスは山口から実行委員会主催の「12月、山口市はクリスマス市になる」にも参画しています。

点灯式では、谷澤幸生学長扮するサンタ及び「ブラッシュアップ・ヤマガチ」次期代表 池田真一郎さんの挨拶の後、カウントダウンの合図でイルミネーションが点灯されると、会場から歓声が上がりました。その後、美しいイルミネーションをバックに、本学の管弦楽団、吹奏楽部によるパフォーマンスやサンタコスチュームをまとったヤマミィとの写真撮影が行われ、イベントを盛り上げました。このイルミネーションツリーは、12月25日(月)まで、毎日17:00～21:00の間、ライトアップされました。



07

山口大学医学部と山口東京理科大学薬学部が
連携協定を締結しました

山口大学医学部と山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部は、チーム医療を実践できる優れた医療人を養成し、地域の健康・医療・福祉の発展に寄与することを目的として、両学部の教育資源を活用した「多職種連携教育プログラム」を令和6年度から共同実施することになりました。

令和5年12月25日(月)、本学医学部本館6階会議室において連携協定式が執り行われ、山口大学の篠田晃医学部長と、山陽小野田市立山口東京理科大学の武田健薬学部長が協定書への署名を行いました。

国立大学医学部と公立大学薬学部による多職種連携教育は全国で初の取り組みで、今後は医師、薬剤師、看護師、保健師、臨床検査技師を目指す2校の学生計360人が、両キャンパスを相互に利用しながら、全8回のプログラムの中でグループディスカッションや課題解決型の教育を通しチーム医療を学びます。

この協定が異なる大学及び学部・学科の学生と出会う貴重な機会となり、今後、多職種連携教育で学んだことを実践し、山口県の医療の高度化に貢献することが期待されます。



08

「YU学生アイデアコンテスト2023」 最終審査会を開催しました

令和6年2月8日(木)、「YU学生アイデアコンテスト2023」の最終審査会を開催しました。

YU学生アイデアコンテストは、山口大学の学部生、大学院生を対象に、アイデアを持つ学生の考えを発表する機会・挑戦の場として、令和2年度から開催しており、今回は4回目の開催となります。YU学生アイデアコンテスト2023は令和5年11月に公募を開始し、令和6年1月中旬に1次審査(書面)が実施されました。

今回の最終審査会には、1次審査を通過した12組の学生・グループが参加し、短い持ち時間の中で、自身が考えたアイデアのプレゼンテーションを行いました。また、山口市のかめ福オンプレスを本会場として、学内の希望者にはオンライン配信を行いました。

参加者によるプレゼンテーションの後には、実現性や提供価値、提案に至る動機等について学外有識者を含めた審査員による審査が行われ、最優秀賞は、医学部 医学科5年 木村綾佑さんのチームが提案した「小野茶石けん“小野茶chacha”の紹介」が受賞し、最優秀賞を含む受賞者には、協賛の山口大学基金から賞金が贈られました。



09

第58回日本水環境学会年会において 年会学生ポスター発表賞(ライオン賞)を受賞しました

令和6年3月6日(水)～8日(金)に九州大学伊都キャンパスで開催された第58回日本水環境学会年会において、工学部の黒木咲良さん(社会建設工学科環境衛生工学研究室)と高橋律穂さん(循環環境工学科環境計画学研究室)が、年会学生ポスター賞(ライオン賞)を受賞しました。

日本水環境学会年会は、水環境分野の幅広い研究の発展と会員相互の情報交換を促進するために毎年春に開催されており、全国から約1,400名が参加し、600件以上の研究発表が行われ、活発な議論が行われています。参加者の投票によって20名の年会学生ポスター発表賞(ライオン賞)受賞者が決定され、黒木咲良さんによる「底質中へのアマモ漂着物の積極的な貯留が底質環境に及ぼす影響」、高橋律穂さんによる「中温メタン菌の45°C付近における耐熱域への適応」が受賞しました。

社会建設工学科と循環環境工学科は環境・衛生工学分野において講義や研究の連携を行っています。工学部では、これからもブルーカーボンや低炭素社会に貢献する研究を進めていきます。



財務データ ガバナンス

Financial data
Governance

